

福島大学

人間発達文化学類
人間発達専攻

キャリア教養学科

Q1.編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

大学受験で失敗してしまい、短大で英語のスキルや基本的な知識を習得してから、編入試験という形でリベンジしようと思ったからです。また、短大では学ぶことのできない、より専門的な知識を学びたいと考えたからです。

Q2.編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

聖母アワーという講義の時間に就職と編入のグループに分かれ編入に必要な英語スキルや小論文スキルを学び、実際に編入に合格した先輩方のお話を聞き、自分に必要な情報を収集して自己対峙をします。編入英語対策の講義や英語対策の講義も週に2回あり、その他の小論文の添削や面接の練習は個人で先生方をお願いして行います。

Q3. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

英語に関しては、1年時と2年時にある聖母アワーの時間と編入英語対策の講義で主に行われます。編入英語を担当してくださる先生と相談し合い、自己学習で何をすべきかを考える必要があります。小論文に関しても実際に課題を出されて書くという演習を行います。面接に関しては、聖母アワーでの面接練習と、先生方と個別に行う面接練習があります。

Q4.編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

編入英語対策です。福島大学の人間発達文化学類の英語の試験は、記述式の長文読解だったため、どれくらい英語の文章が読めるかが重要になってきました。そこで、日ごろから英単語を覚え長文読解をし、和訳・英訳の練習もしました。英単語は、編入英語対策の講義での単語テストが1年時からありました。それに加えて、自分でも英単語帳を買い、毎日少しずつ単語を覚えるようにしていました。

Q5.聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

一番は英語のスキルです。編入試験に特化された講義を受講することができたのは、とても大きかったと思います。また、聖母アワーの時間でも、小論文の書き方を教えていただき、高校時代よりも論理的に自分の考えを書けるようになりました。編入試験に必要なこと以外にも、社会に出てから必要なビジネス実務についてやパソコンスキルを習得できたことも編入先でも使える大きな力だと思います。

Q6.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

まずは英語の勉強の仕方です。自分に合った勉強法や勉強内容が分からず、悩んでいた際に、おすすめの単語帳や長文読解のテキストを勧めてくださいました。面接で自分の熱意を伝えるということです。また、志願理由書の添削や面接練習を行っていく中で、内容をより明確にする必要があるというアドバイスを受けたことで、自己対峙をする機会になり、より大学に行きたいという意思が強くなりました。

Q7.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを書ける範囲で教えてください。

①短大受験時は本命大学の結果が分かる前だったため、本命大学のリハーサルだと思って臨もうという気持ちでした。また、短大に入学したらは人一倍勉強して次こそ合格しようという気持ちでもありました。

②本命の大学ではないのかという少しマイナスな気持ちと、これから2年間頑張っただけ絶対合格しようというプラスの気持ちがありました。

③今までやってくることはやったから、それを試験にぶつけようという気持ちでした。ダメだったらどうしようとするよりも、もうここまできたらやるしかないと考えていました。

④自分の受験番号を見た時には、最初目を疑いました。自信がなかったというよりも、落ちていたらどうすればよいのかと不安になっていたからです。しかし、結果は最後まで本当に分からないのだなと思い、とても嬉しかったです。その次に、お世話になった先生方や友達に早く報告して感謝を伝えたいと思いました。

Q8.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

聖母短大に編入を目的に入学してくる人の中には、一度受験に失敗している方もいると思います。編入目的以外で入学してきた人も、少しでも編入に興味があったらチャレンジすべきだと思います。そのために、自己対峙をしっかり行なってください。編入試験は決して簡単なものではありません。自分が編入先で輝いている姿をイメージしながら、日々の勉強や学校生活を送ってください。アドバイスをしてくださらない先生は一人もいません。自分は独りではありません。頑張ってください！